

第 60 回
福井県保育研究大会
報 告 書

主 催 福 井 県

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会

目 次

大会日程	・・・・・・・・	1
大会参加者数	・・・・・・・・	2
分科会報告	・・・・・・・・	3
第1分科会	新たな時代の保育実践 ～すべての子どもにむけて～	
第2分科会	配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて	
第3分科会	保育者の資質向上を図る	
第4分科会	地域の子育て家庭への支援の充実にむけて	
第5分科会	子どものより良い育ちにむけた関係機関とのネットワーク	
第6分科会	「食を営む力」の基礎を培う食育の推進	
第7分科会	保育の社会化にむけて ～保育の営みをいかに社会に発信するか～	
第8分科会	公立保育所・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割	
全体会報告	・・・・・・・・	19
大会宣言	・・・・・・・・	25

第 60 回 福井県保育研究大会 日程

1 分科会 ※web システム「Zoom」を使用したオンライン配信

時間／期日	1 日目【8月24日（火）】	2 日目【8月25日（水）】	3 日目【8月26日（木）】
10:00～11:30	第1分科会 「新たな時代の保育実践 ～すべての子どもにむけて～」	第3分科会 「保育者の資質向上を図る」	第6分科会 「食を営む力」の基礎を 培う食育の推進」
13:00～14:30	第2分科会 「配慮を必要とする子ども や家庭への支援にむけて」	第4分科会 「地域の子育て家庭への支 援の充実にむけて」	第7分科会 「保育の社会化にむけて ～保育の営みをいかに社会 に発信するか～」
15:00～16:30	/	第5分科会 「子どものより良い育ちに むけた関係機関とのネット ワーク」	第8分科会 「公立保育所・公立認定こ ども園等の使命と地域社会 での役割」

2 全体会 110分 ※Youtube による動画配信

（収録配信【期間 8月30日（月）～9月5日（日）】）

- (1) 開会
- (2) 研究発表 (30分)
テーマ「保護者支援につながる保育～エピソードの記録と保育士としての成長～」
発表者 敦賀市公私立保育研究会
- (3) 記念講演 (60分)
テーマ「ディスタンスから考える保護者ととともに進める保育
～ディスタンス（距離）に関する心理学～」
講 師 仁愛大学 人間学部心理学科 教授 森 俊之氏
- (4) 大会宣言
- (5) 次年度開催地挨拶
- (6) 閉会

第 60 回 福井県保育研究大会 市町別参加者数

	第1分科 会	第2分科 会	第3分科 会	第4分科 会	第5分科 会	第6分科 会	第7分科 会	第8分科 会	全体会のみ	その他	計
福井市	16	19	16	6	8	3	3	3	4	0	78
敦賀市	5	10	6	2	4	2	3	4	33	0	69
小浜市	0	7	2	1	0	0	0	0	11	0	21
大野市	4	4	2	7	3	0	2	2	0	0	24
勝山市	3	10	5	4	3	3	8	0	3	0	39
鯖江市	6	6	4	2	1	2	2	3	1	0	27
あわら市	5	3	2	1	2	2	1	1	0	0	17
越前市	7	16	7	4	2	6	1	1	4	1	49
坂井市	9	10	12	2	1	2	2	2	5	0	45
永平寺町	2	3	2	1	1	1	1	1	0	0	12
池田町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
南越前町	1	2	2	0	3	0	0	1	0	0	9
越前町	1	2	0	0	0	2	2	0	1	0	8
美浜町	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	4
高浜町	2	0	0	0	0	0	0	5	0	0	7
おおい町	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
若狭町	2	3	2	1	0	0	1	0	0	0	9
計	67	96	62	31	28	24	27	23	62	1	421

※上記の「その他」は、大会実行委員。

分科会



第1分科会 <新たな時代の保育実践 ～すべての子どもにむけて～>

司会者 (兼記録者)	草の実保育園 細呂木こども園	主任保育士 園長	桑原 真須美 房野 季枝
助言者	福井県教育庁義務教育課幼児教育グループ 認定こども園三国ひかり	主任 園長	青木 美恵 鳴海 賢昌
意見発表者	さくら認定こども園 栗野保育園	園長・教頭 副園長	伊藤康弘・伊藤 仁美 小川 加奈

1. 意見発表の概要

◎子ども主体の保育を考える ー行事の変容を例としてー

- コロナ禍で幼児教育の大きな影響を受ける中、前年踏襲の風潮に疑問を感じた。
- 主体的な保育とは。また、子ども主体の行事を見つめ直す機会に繋がり、職員の意識向上につながっていった。
- 主体的な行事の変容として、運動会を事例にとる。単年で完結せず、子どもの成長とともに連続性のあるものとして実施した。

◎絵本からつながろう ～保育がつながる・保護者がつながる・心がつながる～

- メディアの急激な発展の中に子どもに与える影響に不安を感じ、絵本の大切さを改めて位置づけをした。
- 絵本を仲立ちとして保護者へ啓発できることは何か。保護者に伝わりやすい手段を実践した。
- 絵本を通した保育で子どもの変化、保護者の変化、保育士の学びの場として効果があった。

2. 討議の概要

【伊藤先生への質問】

①「コロナ禍で行事の持ち方が難しくなり、子ども主体の保育を大事にすると、行事の内容の変更の必要性が出てくるかと思うが、保護者の方々から今までのやり方と比較して希望や要望が出なかったのか？その時はどのように対応し、保護者に理解していただいているのか？」

- ・園の中が少しずつ変わり SNS が広がり、子どもの様子が分かってもらえた。
運動会の座席についても、子どもがくじを引き指定席が決まるという仕組みで、不満は無かった。

②「日々の子どもの主体的な活動を進める中で、“子どもの主体性”と“保育教諭の援助”とのバランスが難しいと感じることがある。ヒントがないとなかなか遊びが進まない、ヒントを与えずぎれば主体性がなくなってしまうのではと感じる。援助する際に気を付けていることは何か？」

- ・“仕掛ける” バランスは難しい。何気なくそっと気が付くように保育者が仕掛けてもいいのではないかと！見守るだけでなく、子どもとの応答性の優先順位が大きいのと思う。

【小川先生への質問】

①「コロナ禍での絵本に触れる機会を多く持つ場合、消毒などの面はどのように対応しているのか。衛生面の消毒はどのように対応しているのか？」

・この研究の後、コロナ禍になり、絵本の貸し出しは取りやめた。絵本コーナーでは自由に読んでいる。アルコール消毒をしてから絵本を読むようにしている。絵本は定期的に消毒で拭いている。

②「0歳児の担任をしている。一人一人の発達の違い、遊び、絵本への興味関心も違う中、0歳児の保育の中で、絵本をどのように取り入れ、また工夫していることを教えてほしい。」

・絵本と連動した遊び、言葉の音、リズムが楽しめるもの、繰り返し言葉の楽しめるものなど絵本を中心として取り入れている。言葉と動きも遊びとして楽しんでいる。

③「ドキュメンテーションを通して保護者への発信を行ったとのことですが、理解につながるために、発信する際の環境や方法を細かく教えてほしい。」

・絵本コーナーや各クラスで写真を掲示し、読み取れる“子どもの育ち”も載せて掲示している。なるべく保護者との接点となるような場所を工夫している。

3. 助言者のことば

《青木美恵先生》

「伊藤先生発表」

- ・子どもの内面の顕在化・子どものつぶやきを逃さない
 - ・環境構成の工夫・子どもになってアイデアを出していく
 - ・学びのプロセス・運動会も日々の保育の一部ととらえる
 - ・節を足場にして自分自身を作り上げる・ストーリーを作り上げる
 - ・結果のみでなく試行錯誤のプロセスを見せていく
 - ・生きることの楽しさ・子ども達の自己肯定感の高まりが子どものつぶやきで日々変わっていく
 - ・物理的、時間的なスクラップ・保育者の負担を減らすために、準備物の見直し
- *以上の点を評価された

「小川先生発表」

- ・絵本とは機能性（言葉の発達、社会性、情緒的発達、読書への意欲関心）
 - ・人権（子どもの人権としての絵本の意味）
 - ・絵本で信頼関係の構築（保護者にとっての絵本の意味）
 - ・絵本で子育ての楽しさ
 - ・絵本は過去、現在、未来、学びを有機的につなげるもの
- *県レベルで不読率が高いことから、絵本に着目することはとても意味があると評価された

《鳴海先生》

「伊藤先生発表」

- ・保育は保護者の理解なしでは、成り立たない（信頼関係）

-
- ・ 行事が遊びの中にあった。遊びの延長線上であった
 - ・ 保育の反省の上に見直しを図ってこられた
 - ・ 低年齢の遊びも触れられるとよかった
 - ・ 子どもの主体性とは保育者の意識改革が大切

「小川先生発表」

- ・ デジタル、AI が進化する今だからこそ、絵本を取り上げたことに感動した
 - ・ 育ちには順序がある“体→心→仲間と交じる→良いものにあこがれる”脳が柔らかい
うちは母親の声で語りかけることが大事である
 - ・ 0歳児の母子関係の始まり、目と目で語り掛け、コミュニケーションを高めよう
-



第2分科会 <配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて>

司会者 (兼記録者)	木崎保育園	園長	原田 弓子
	なかよし幼児園	園長	玉村 千登美
助言者	福井県立大学学術教養センター	教授	清水 聡
	なかよし保育園	主査	白崎 光江
意見発表者	高木保育園	園長	上野 仁子
	宮川保育園	園長	堂下 友紀

1. 意見発表の概要

◎気になる子への“繋がる”支援方法を探る

保護者対応に苦慮し、子どもの問題行動を共有していくことの難しさを感じている。保育士全員が、担当クラスの気になる子の問題行動と保育士のかかわりのエピソード実践記録を記入し、園内検討会で保育士の役割を確認する。また、カウンセラーを招いての検討会を重ねた。実際に記録を書くことで保育の振り返りができ、子どもを肯定的に捉えて観察しようとする姿勢に繋がった。保護者の不安や困り感にアンテナを張りポジティブな伝え方で支援を継続し、また育児に寄り添い耳を傾けていくことが保護者支援の第一歩となる。

◎子どもの心、親の心に寄り添った保育をめざして

様々な気がかりさを抱えた子どもの入園が増え、クラス運営や行事への参加の仕方が難しい。そこで、配慮を必要とする子への様々な活動・行事参加に対して、保育の工夫や適切な援助が必要となる。園での毎日の繰り返しの関わりを丁寧に行い、保護者と連携を図りながら進めていく。また、専門機関とも連携を図り、特性をより理解するため療育の見学も実施。専門的な知識を学び、子どもに寄り添ってありのままを受け止め、保護者と日々の姿や成長を共有していく保育者の姿勢が、保護者の安心感へと繋がる。

2. 討議の概要

- ・ 就学前に不登校の事例・・・要保護児童のため支援機関への相談を早急に。継続して毎日登園できるように、その子が興味のあるダンスや制作活動を取り入れ、行事参加の中で、存在価値を与えるなどの居場所を作る。
- ・ 1歳児双子姉妹の保護者に心配事を伝えるのは？・・・カウンセラーからの助言を実践し“こんな事したらこうなったよ”と負担にならないよう伝えたことで、和らいだ気持ちで受け止め、少しずつ幼児相談会に行ってみようかなという気持ちに繋がった。
- ・ PECS カード・・・気がかり児が生活に必要な物や遊びに使う物 20枚程度あり。

3. 助言者のことば

〈福井県立大学 学術教養センター教授 清水聡先生より〉

- ◎ 幼児期に必要なこと⇒・他の人間に対する信頼感をもち続けること
 - ・ 集団を嫌いにならないこと ・ 対人関係の攻撃的スタイルは早めに消すこと
 - ・ 基本的生活習慣の自立度はできるだけ高く ・ 身体発達に関しては早期療育が有効
- ◎ 児の行動の理解と対応⇒・児の正しい見立てと問題行動の原因へのアプローチが大事
 - ・ 自己主張=成長→見通しをつけてあげることで自分なりの思い込みを防ぐ
- ◎ 保護者への対応の仕方⇒・困っていることを尋ねる
 - ・ できることできないことを明確に
 - ・ 目標の具体的共有 ・ 受容と期待の繰り返し ・ 特性に合わせた対応をする
- ◎ 伝え方の基本⇒・一緒に考えるという姿勢・信頼関係を培う

〈なかよし保育園 白崎光江先生より〉

- ◎ 園で困っていることが切り出せず保護者支援は難しいが、とにかくコミュニケーションを丁寧にとることが大切。園が関係機関の橋渡し役となり、その児の存在のお陰で顔が見える関係となる。一人ではない、チームで頑張ろうという気持ちに繋がる。
- ◎ 個別支援を考えるためのワークシート（氷山モデルで考えよう）・行動シートの紹介



第3分科会 <保育者の資質向上を図る>

司会者 (兼記録者)	たんぼぼ認定こども園 ののはな保育園	園長 園長	田中 優香 武田 恵美子
助言者	仁愛大学人間生活学部子ども教育学科 敦賀市児童家庭課	教授 主任指導保育士	石川 昭義 光原 陽子
意見発表者	東郷こども園 今福保育園	園長 副園長	服部 悦子 今井 順

1. 意見発表の概要

◎ 園内研修を通してのチーム作り

福井市は平成24年度に「認定こども園、保育所等における質の向上のためにアクションプログラム」を策定。研究指定園を中心として公私立園の合同研修会に取り組んできた。

具体的には園でテーマを決めて園内研修を進めたり、ポスターセッション、動画公開、ドキュメンテーション作成など合同兼発表会を行った。

園内研修を通して自分の保育を認められることで自己肯定感が高まり、ほかの職員の良さに気付くことで自分の保育を振り返ることができた。園でテーマを決めて研修することで職員全員がテーマに意識を持ち、話し合うことで園全体の資質向上につながった。

◎ 安全管理と安全教育を通して

一昨年度の散歩時やスクールバスでの子どもに関わるいたましい事故などを受け、安全対策の見直しを始めた。散歩ルート of 危険個所の確認、警察など関係機関と現場を確認して連携を図る、園内研修、園児への安全教育に取り組んできた。

安全管理や安全教育について再確認することができた。共通理解を図ることで子ども達への声かけが変わった。危険を察知できる観察力を高めるため、チェックリストやマニュアルを作成し、職員の意識向上につながった。

関係機関との連携を密にし保育士の資質向上に努めながら、子ども達が安心して過ごせる園を目指していく。

2. 討議の概要

◎ 園内研修はどのようにしているの？

→なるべく全員でできるようにしている。パート保育士は午睡中の時間にするなど工夫している。また、若手保育士が発言しやすいように若手の時間を設けている。

◎ ドキュメンテーションの作り方の勉強会はしたの？

→特にしていないが、作成するときに考えたり、工夫したりすることが文章力、伝える力等資質アップにつながった。自分の保育を見直すことにもなった。保護者に知らせることで子ども達のあそびや感じていることを知ってもらえた。

◎ 安全について研修していることを保護者に知らせた？

→全園ではないが散歩マップを貼った。ルートの中で楽しいところ、危険なところを保護者に知らせた。

◎ 安全の言葉がけはどのようにしているか？

→安全確認、約束など基本的なこと。いつものルートが通れないときには知らせるなどしている。

3. 助言者のことば

<敦賀児童家庭課 主任指導保育士：光原 陽子 先生より>

◎ 発表することで考えがまとまるので実感として残る。話し合う中で気付きがあり、同じ仲間として頑張ろうと思える。職員のリフレッシュも大切なので思いを短い時間でまとめることも大切。

◎ 安全教育は各市町で取り組んでいる。

実際歩いてみて危険個所を把握し、関係機関に要望を発信し続けていくことが大切。保護者には散歩先の目的を伝えることで安心される。

<仁愛大学 人間生活学部子ども教育学科 教授：石川 昭義 先生より>

◎ 研究の成果が園に反映されているか？テーマ設定がポイントである。

すべての職員が関われる研修がよい。話し合う→お互いの良さに気付く→資質向上になる。園内研修で認識を共有することで市全体の保育資質向上につながる。

◎ 園児の散歩コースは保育士の散歩コースでもある。勤務地の状況を自分の足で確認する機会になる。ルートは何故その道なのか危険個所等を検討することで適切な道を選ぶことができる。専門機関の課を超えて連携して自分の周りをよくしていくこと。



第4分科会 <地域の子育て家庭への支援の充実にむけて>

司会者 (兼記録者)	文京こども園 小浜市子ども未来課	主幹保育教諭 課長補佐	川崎 あかね 中本 玲子
助言者	すみれ保育園 福井市男女共同参画・子ども家庭センター	副園長 室長	岡田 寿美子 安井 弘二
意見発表者	誓念寺こども園 認定こども園岡本	副園長 園長	宮腰 知子 小林 陽子

1. 意見発表の概要

◎ 地域における子育て支援 ―子育て交流ひろばの実践―

「子ども子育て支援調査」から見えてきた子育て世代の要望と保育所保育指針に示された子育て支援から園で勘案し、日曜日に親子で楽しめる場「日曜子育て交流広場」を提供することとした。「日曜子育て交流広場」は、月に1回、日曜日の午前に、地域の方や園児の祖父母の方にサポーターとして協力してもらいながら、市内の園児、兄弟、未就園の親子などを対象に開催した。雨の日や降雪時でも室内で遊ぶことができることや、一緒に参加している親子と交流ができ子育てに役立つなど、休日の楽しい経験が子どもたちや保護者にとって子育ての楽しさが感じられる充実したものとなった。今後はサポーターの拡充や時間や回数を増やし、対象を広げるなど地域の子育て支援を進めていきたい。

◎ 地域・保護者とのつながりを深める保育～地域の資源を保育にいかして～

近年、核家族や共働き家庭の増加もあり、まわりの環境に関心が薄く子育てに不安をもっている保護者も多い。そこで、親子で共通の話題に共感できる機会がつけられるよう、園児たちが地域に出かけ、地区の行事や伝統文化に触れられるようにした。園児たちは体験したことを家族に報告し、実際に家族と一緒に作ったり、作ったものを園に持って来たりするなど、地域の行事の振り返りが園児の遊びにつながり、保護者と園児の共通の話題になった。また、園児たちの遊ぶ様子などを視覚化して保護者に発信することで、保護者へ話すきっかけができ、子育てに対して不安に思っている保護者に対して、共通の話題を通して、子育ての楽しさなどを伝えていくことができた。これからも保育者としてできることは何かを考え、保護者と共に考え、子どもたちの育ちを支えていきたい。

2. 討議の概要

◎地域・子育て支援の取り組みを通して

- 休日出勤などの開催については、保育者は年2回ほど出勤し、出勤した場合は代休を取り負担がないようにし、園児も保護者も保育者も楽しめるようにしている。
- 家庭への発信元であるドキュメンテーションについては、職員の無理のないようにできるときに掲示し、その中で担任同士の話し合いが資質向上につながっている。

◎取り組んでいる中での利点について

- 地域での力を借りながら、普段の保育の中で見られない園児たちの姿や親子の関係などが見られ、それが通常の保育にいかされている。

●地域で守り受け継がれている資源を見たり体験したりすることで、園児たちの日頃の生活や遊びの中で再現され、保護者と園児の共通の話題となり、共通の話題を通して子育て支援につながっている。

3. 助言者のことば

<すみれ保育園 副園長 岡田 寿美子先生より>

地域の人材や資源を活用しながら保護者支援をしていくことが大事である。日頃の挨拶や何気ない会話の中で話しやすい雰囲気をつくり信頼関係を作っていくながら、アドバイスや必要に応じて専門機関につなげていくことが大切である。コロナ禍という混乱の中であるこの時こそ、工夫を凝らし、支援が必要である。子育て真っ最中の保護者が抱える不安を受け止めて、子育ての喜び、楽しみを感じて頂きながら親子が育っていけるようにしていかなければならない。

<福井市男女共同参画・子ども家庭センター 室長 安井 弘二先生より>

社会資源や地域資源をうまく活用しながら、社会全体で子どもの育ちを支えていくことが大事である。専門家の方が協力すると地域の子ども、親御さん、お年寄りまで、元気になり、地域が明るくなる。そういう地域づくりの場として保育園があったらいいと思う。今は、保育園も保育者も社会資源の一つとして、地域に出ていく事を求められている時代。大変な世の中だが、いろんな事に挑戦しながら地域を活性化して頂きながら、保育者自身がいきいきとなって頂けるとよい。



第5分科会 <子どものより良い育ちにむけた関係機関とのネットワーク>

司会者 (兼記録者)	いなほこども園 上北野保育園	副園長 園長	近藤 明子 横田 千春
助言者	仁愛大学人間生活学部子ども教育学科 あわら敬愛こども園	准教授 園長	青井 夕貴 渡邊 一幸
意見発表者	新和さみどり保育園 今庄なないろこども園	保育教諭 園長	扇下 宏美 湊田 裕子

1. 意見発表の概要

◎関係機関と繋がる第一歩を踏み出す為に～子どもの育ちを、保護者と喜び合おう～
3つの事例を基に検討・考察を行う。それぞれの事例において、子どもを取りまく環境や背景、保護者の考え方は様々である。関係機関とのネットワークが充実していても、いかに保護者の心を開き、前向きに進めていけるかが重要であると感じると共に、その難しさを痛感した。また、子どもの気になる姿を伝えるばかりでは反発的な態度になり話し合いが進まない。子どもの良いところを知らせ、子どもが何に困っているかを示す事で気持ちが繋がっていく。保護者の気持ちに共感する事で親近感がわき、相談出来る身近な存在として受け入れてもらえる。今後も保育の可視化や保護者との関係作りに努め、何が保護者や子どもにとって有効かを検討しながら関係機関と連携をとり支援していきたい。

◎小学校とのよりよい接続をめざして

1校区1園でそのままクラス全員一年生となる環境なので、学校との連携もスムーズである。園長が学校評議員となり学校の活動を知ることができる。園便りと学校便りも交換している。小学校との縦割り班に園児が入ったり、一年生との生活科の授業も一緒に行ったりして互いの様子や学びの姿を共有できた。しかし、コロナ禍の中、今までのような交流ができなくなり、連携の仕方を考えるきっかけになった。そこで一年生の保護者対象に就学に関するアドバイス等のアンケートをとり、卒園児保護者に発信することで、保育園から伝えるよりも効果的であった。今までの活動にとらわれず、「何のためにするのか」を考え、学校連携をしていきたい。

2. 討議の概要

<新和さみどり保育園の発表についての質疑応答>

○保育カウンセラーは、年何回実施したか？

各園の希望する回数行っている。この事例に関しては今年度1回だが、次年度に繋いでいく。

○保育カウンセラーとつながった後のメリットやデメリットがあれば教えて欲しい。

直接保護者と対面して話し方や伝え方のアドバイスをもらうことができてよかった。また、保護者とカウンセラーの話に参加することで、第三者としてみることもできた。

難しさとしては、保育カウンセラーは、保護者にとって初対面の人になるので、その日だけでは心を開いてもらうことは難しい。安心してもらえるように繰り返し園に訪問してもらうことを希望する。

<今庄なないろこども園の発表についての質疑応答>

○保護者アンケートを実施したきっかけは？

1, 2年の保護者の方で就学について意識の高い方がいたので、こども園の方から伝えるよりも先輩保護者からの気づきを卒園児の保護者に伝えた方が効果があると思ったから。

○コロナ禍の中での園小連携はどうしているか。

- ・R2年度の「わくわく入学体験」は、手をつながずに距離をとって行った。
- ・R3年度の「校長便りと園だよりの交換」は、校長室へ入らず、ポストに入れるだけにした。

3. 助言者のことば

<青井先生より>

①相手（保護者・保育カウンセラー・小学校）のを知る。

情報収集をして、特徴を知る。

②何のために繋がるのか。

・選択肢を増やすことは大切であるが、すべてを活用しなくてもよい。

選択・精査することは難しいが、必要でなければ繋がらなくてもよい。

子どもを一番知っているのは担任である。コロナ禍の中で、行事を見直し何かを切っていくことも必要である。

③繋がった後をどうするか。

・専門機関から得た情報は、その後園がどう進めていくかが大切である。

プロセスの一部として、良くなった所と良くならなかった所を整理する。

<渡辺先生より>

①保護者との関係は入園前から始まっている。

・どんな大人になってほしいかを聞くことで、保護者が考える場面が出来る。考える機会を繰り返しながら信頼関係を築いていく。

家庭で困っていることは、園で困っている所と一致する場合が多い。

②カウンセラーについて

・アドバイスをもらったら、保育者と保護者はキャッチボールしながら良い点や課題共有をしていく。ネットワークはたくさんあるが、繋がっている全機関が共有していくことが大切である。

③小学校との連携について

・人の顔が覚えられることが利点。活動・環境だけでなく人と人の繋がりが大切。人を知ること、専門機関や学校を知ることが重要。

・1年生保護者へのアンケートは、保護者から保護者に結果が発信されていて良い。いつ実施するかは、生活リズムを整えることを考えると冬では遅いので秋くらい？

・あわら市は、小学校とクラス分けも一緒に考える。定期的に集まる機会を園中心に作っている。「包括支援センター」や「保健師」にも園から会議を希望したり、アピールしたりしている。



第6分科会 <「食を営む力」の基礎を培う食育の推進>

司会者 (兼記録者)	認定こども園里山ほのか学園 名田庄こども園	副園長 園長	岡倉 裕理子 奥 みち代
助言者	福井県栄養士会 大野市健康長寿課	理事 主任管理栄養士	木内 貴子 伊藤 真由美
意見発表者	妙安寺こども園 認定こども園たいら保育園	主幹保育教諭 園長	田中 里衣 木村 典子

1. 意見発表の概要

◎「みんなが楽しめる食育活動の取り組み」

- ・アレルギー児の対応の仕方（入園前児童調査票の記入、診断書の書類、食物アレルギー対応実施申請書、食物アレルギー乳児面接記録表、除去解除申請書）
- ・野菜の栽培、収穫
- ・クッキング（カレーライス作り、よもぎ団子作り、ベトナム料理のフォー作り）
- ・食育習慣
- ・ランチ会（誕生児は好きなメニューを選ぶことができる）
- ・行事食（子どもの日メニュー、お月見メニュー、七夕メニュー） ・いもまつり

◎子どもたちの「食べる力」を育てる～家庭と協力しながら～

- ・離乳食について（初期、中期、完了期）
- ・栄養士のクラス懇談会参加（個別相談、・発育に関すること・食事の内容の見直し）
- ・保護者への調理実習、レシピ紹介（お弁当作り、給食だより）
- ・栄養、発育などの個別相談
- ・食物アレルギー対応について（代替食は見た目が同じ物、同じものが食べられる工夫）

2. 討議の概要

Q:年長児だけでなく全年齢がクッキングするのですか？

A:1才児もジップロックの中の粉を混ぜてマフィン作りなど実施。

Q:ランチ会は誕生児さん限定ですか？

A:そうです。前日にメニューを選び楽しみにしています。自分の誕生月をととても楽しみに待っています。

Q:おやつボリュームがあるが、午睡明けの幼児も食べることができますか？

A:保育内容も見直し、よく体を動かして遊ぶカリキュラムなので完食している。

Q:限られた時間と人数で、給食だより・レシピ紹介を内容深く発信させるコツを教えてください。

A: 栄養士が2名在籍、シフトで人員配置を工夫し教務分担をしている。

3. 助言者のことば

◎「みんなが楽しめる食育活動の取り組み」

- ・アレルギーに関する資料として、保育所におけるアレルギー対応ガイドラインの生活管理指導表を用いるとよい。
- ・子どもたちの主体的な活動の中から、気づいたこと感じたことを話し合い栽培・収穫を通して学んでいる。また、それが遊びの中に広がって素晴らしい。
- ・低年齢児やアレルギー児など、年齢や個々に合った内容で安心して楽しめるクッキングを考えて取り組んでいる。

◎子どもたちの「食べる力」を育てる～家庭と協力しながら～

- ・食育という言葉が出てくる前から、食に関する重要性を感じ保育の見直しも一緒に考えたところが素晴らしい。
- ・子どもたちだけでなく保護者も巻き込んで、食に対する興味関心をうまく伝えられている。
- ・おやつのお歯固めごぼうスティックは、どんな味付けなのか興味深い。
- ・幼児期、小学校、中学校、高校、成人までの成長過程の食育の連続性の大切さを感じる。幼児期で学んだことを繋げていかねければならない。



第7分科会 <保育の社会化にむけて

～保育の営みをいかに社会に発信するか～>

司会者 (兼記録者)	吉川保育所 はぎのこども園	所長 園長	高島 幸子 菅原 量
助言者	仁愛大学 小浜市幼児教育センター	名誉教授 幼児教育指導員	西村 重稀 糀谷 恵子
意見発表者	上野こども園 みずうみ保育園	主幹保育教諭 副園長	藤原 文江 秋山 ますみ

1. 意見発表の概要

◎テーマ 「地域と協働し、ともに育つ保育園を目指して」

美浜町の自然豊かな環境と温かい地域性との協働にスポットを当てる。

協働一同じ目的を共有し、ともに力を合わせて活動すること。

園芸研究センターでの芋苗植え、漁連への訪問、神社の例祭への参加など幅広い年齢層の方との交流を通して様々な体験をする。

行事として交流を続ける中、保育士としての悩みがでてくる。

○行事が多い中で地域に出向くことは大変

○同じボランティアの方に集中しているので、広く地域の方に理解されているのか。

保護者にアンケートをとり、積極的にボランティアを求める。

〈園の活動〉 地域との活動情報を張り出し、職員の共通理解を図る。また園からの積極的な活動として玄関掲示、保護者への声掛け、活動をスライドショーにする、お便りの発行をする。

〈今後の課題〉

ボランティアの方への感謝を子どもたちに伝えていきたい。

保護者、地域の方とともに学び、協働して保育をしていきたい。

◎テーマ 「地域の中で根づくこども園を目指して」

仏教保育を取り入れ、手を合わせ、心を合わせ感謝の心をもって保育を行っている。

園舎近くには川が流れ、恵まれた自然豊かな環境である。

芋掘り、老人ホーム慰問、地域行事として参加、小学校行事への参加は以前からあるが、どの行事も単発的なもので、限定的なものが多い。子育て相談など広く交流する場が必要ではないのか。

〈園の活動〉 子育て広場（子育て相談、ヨガ教室、離乳食講座）を開催

〈地域の方との交流〉 地域資源として、民生委員児童委員との交流。

情報の交換だけであったが、園の行事に分散して交流（慰問、七夕、お盆祭り、餅つき大会など）する。また社会福祉協議会の協力のもと、七夕に独居老人を招待だったが、役員による年長児対象の伝承遊びを開催する。

〈今後の課題〉

○参加したくなるような活動や子育て支援の専門機関やアドバイザーを活用する

○民生委員児童委員や社会福祉協議会との継続的な活動

○参加される方を待つのではなく、積極的に園から協力を呼びかける

○世代間交流の場を提供し、地域文化や伝承を伝える

○お寺の行事に参加し、手を合わせ、心を合わせ、地域に根ざした保育を行う

2. 討議の概要

みずうみ保育園 秋山先生への質疑応答

Q、協働というキーワードをなぜ使ったのか。

A、美浜町全体で見ると協働とは言えない。まだ地域とのつながりができていない施設もある。地域の人たち、他の子どもたちに育てられる体験が必要（西村先生）

Q、保護者ボランティアはいつ頃から、内容はどう決めているのか。

A、三年前から依頼しているが、コロナ禍になってから参加者はいない。

保護者からのボランティア参加は難しいこと。実際的に保育できないから施設を利用している。子どもと一緒に遊ぶ環境を提供することはどうか。新宿のある保育園では、土曜日に親子での保育を開催し、保護者にリーダーをお願いしている。（西村先生）

上野こども園 藤原先生への質疑応答

Q、民生委員児童委員との交流を行ったのは何故か

A、今までの流れで依頼していた。またこれらの方は地域の方との交流が深いので依頼した。社協や民生委員は子どもからお年寄りまで幅広く関わっている。老人や障害の方とは関わりがあるが子どもに関して関係ができれば素晴らしい地域との関わりになる（西村先生）

Q、ヨガインストラクターはどうやって依頼をしたのか。

A、ヨガインストラクターは元保護者に依頼し、ヨガ体験を経験された保護者からよく睡眠が取れるようになったと聞き、好評だったので継続していきたい。

保護者にもいろんな方がいると思うが、協力してくれる方の情報を集めることが大切。いかにその人材を保育に巻き込むことを考えてはどうか。（西村先生）

3. 助言者のことば

糀谷先生 「保育の社会化にむけて」～保育の営みをいかに社会に発信するか～

2ヶ園とも社会に発信し、地域との交流をしており素晴らしいと思う

○地域人材を有効活用 ○知恵や文化の伝承 ○積極的な発信

○体験を通じた地域とのつながり ○保護者ボランティアの活用 ○地域全体で育成

〈小浜市の事例〉

○保護者への発信（園便り、掲示、ドキュメンテーション、HP掲載）

○地域への発信（施設や学校との交流、園の行事や地域行事に参加、広報誌、ケーブルTV）

○幼児教育センター設置 保育に関わるまとめ役や小学校とのつなげる役割

○幼児教育推進協議会 公私立問わず親も先生も参加可能

○相互乗り入れによる園参観

○幼児教育研究会 幼児教育を考える会

○「あゆみ」冊子を発行→社会に発信する

社会に発信すること＝社会に保育の現状を知ってもらう

子どもへの接し方・問題点・必要なことを共有する、理解を得ることで現状を変えていく。

西村先生

社会全体で子どもを育てようということが7分科会の趣旨である。各地域で参加型の交流が必要になる。

都市化や核家族化、女性の社会進出によって地域との関わりが薄れている。3歳以上になると多くの子どもは地域とのつながりがほとんどない

平成 15 年 保育士法定資格には保護者に対する保護者支援が義務化

平成 18 年 こども園法では子育て支援が義務化

平成 24 年 子ども・子育て支援関連3法成立

平成 30 年 改定された保育所保育指針には「地域の実情や保育所体制を踏まえ、地域の保護者等に対して保育所の専門性を活かした子育て支援を積極的に行うこと」とある

今後の課題

地域といかにつながっていくか、いかに巻き込んでいくかが課題である。

今の保護者は限定的な子育てをしている。地域全体で子どもに関わることが重要であり、保護者に園の方針をしっかり伝え、説明することがたいせつである。



第8分科会 <公立保育所・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割>

司会者 (兼記録者)	坂井こども園 河野保育園	園長 園長	渡辺 雅代 今村 和美
助言者	仁愛大学人間学部心理学科 福井市子育て支援課	教授 保育参事	森 俊之 橋本 登茂江
意見発表者	鯖江市子育て支援センターにじいろ 青郷保育園	主任保育士 保育士	斉藤 恵 富田 温子

1. 意見発表の概要

◎地域に広げよう子育て支援の輪 ～支援事業拡充と連携体制～

鯖江市の子育て支援の拠点として常に子育て家庭に寄り添い、子育て家庭のニーズを把握し、より良い支援のためにできることは何か。

【取り組み内容】

子育て支援に関わる機関の代表による「つつじっこ委員会」を開設。子育て支援センターを中心とした地域ぐるみの子育て体制を作る。

今年度の移転を機に、相談事業の拡大。年齢別の小集団で、療育教室や、6ヵ月児を対象に「ハーフバースディ」を開催し、親子の状況確認、養育支援の大切な役割を担っている。

公立施設の利点を生かして、様々な組織・機関と連携し、子育て支援の輪を地域社会に広げてきた。今後は情報発信を工夫し、さらに子育て支援の輪を広げ、またこの支援体制を後輩保育士にも伝えていきたい。

◎地域と共に子どもの健やかな成長を支える公立保育所を目指して ～絵本を通して～

家庭を取り巻く環境が変化しメディアに触れる機会が多くなってきている中、保育所ができる取り組みとは何か。

【取り組み内容】

保育所から・・・町が策定した「ノーメディアチャレンジ」を絵本の貸し出しを通して一緒に取り組む。

地域とのつながり・・・小学校訪問、中高生の職場体験交流等、行政機関との情報交換、高浜町を題材とした絵本の活用している。

絵本を通して取り組んできたことで、家庭での親子のかかわりが増えたという声が聞かれるようになった。子どもとのかかわり方が分からない保護者が増えてきている為、今後も保護者への発信の内容や、方法を工夫していきたい。

2. 討議の概要

支援センターを中心に、地域の子育てへの支援がそれぞれの地区へと拡充されており、支援センターに行けばすぐに解決できることは、市民にとって良い環境になっている。

行政や他機関との連携も公立が中心となる事で、全ての市民を対象とした事業を取り組みやすいのではと感じた。ただ、人事異動で継続性がとぎれやすことなど、難しいことはないのか。また、支援センター実習として、公立園の保育士が学ぶ取り組みは良い事。私立園

にも広げて行ってほしい。

地域の目標として園全体の目標を設定し、それが町全体の目標となっている。また絵本を通して実体験による心の育ちを感じた。

合言葉など構造された目標設定は参加者みんなが分かりやすく良い。絵本の選び方は、子どもの好きなものも良いが、伝えるものなどこちらの思いを反映しても良い。小・中・高との交流アイテムとして絵本を使用することは育ちや学びの連続性にもつながりいろいろな人とうまくつながっている。

3. 助言者のことば

〈福井市子育て支援課 保育参事 橋本 登茂江氏より〉

○公立園の使命・役割

あらゆる事業の情報が得やすく、実行性も高い。公的機関との連携が容易なので情報発信と遂行して行ってほしい。

また、私立園と「保育の質の向上」に向けて、協同してほしい。

○福井市の取り組み

- ・ 福井市では結婚から子育てまで一貫して援助できるよう質の向上を目指している。
- ・ 療育関係では、未就園時は『きらきら教室』、就園後は『はぐくむ教室』とつなげている。
- ・ 地域子育て支援委員会の活動として、各公民館が主となり「家庭教育学級」を開催している。

〈仁愛大学人間学部心理学科 教授 森 俊之氏より〉

「公立保育所等の使命と地域社会での役割」の根底にある2つの思い

○公立・私立に関係なく同じ子どものための施設であり、子どものための取り組みに、公私の区別はないが、公立ならではの特徴があり、それを最大限に生かす。

- ・ 自治体の予算しだいだが、財政的バックボーンが安定している。
- ・ 長期間勤務するベテラン保育士の数が比較的多い
(近年は臨時職員の増加)

- ・ 他の公立機関（行政、学校等）との連携がしやすい
- ・ 一斉に複数園で同じことを一緒にできる
- ・ 保育士は公務員としての配置異動ができる
- ・ 各園の置かれている状況はさまざま
- ・ 公・私立の割合や立地場所など

⇒それぞれの自治体、地域で求められる役割を検討することが必要



全体会報告



第 60 回福井県保育研究大会 全体会

開会挨拶



主催：社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
会長 小藤 幸男

研究発表

【22年度～23年度】

【考察】

- ・他園との情報交換は日頃の悩みなどを話せる良い機会となった
- ・事例を挙げることで、客観的に保護者対応を振り返ることができた

・保育経験の差によって、保育士が抱える悩みの傾向が違つ

研究発表
保護者支援につながる保育
～エピソードの記録と
保育士としての成長～
敦賀市公私立保育研究会
榊林保育園 園長 坂巻 めぐみ

保護者支援につながる保育
～エピソードの記録と
保育士としての成長～

研究発表
保護者支援につながる保育
～エピソードの記録と
保育士としての成長～
敦賀市公私立保育研究会
三原保育園 園長 芝 京子

テーマ：
「保護者支援につながる保育
～エピソードの記録と保育士としての成長～」

発表者：敦賀市公私立保育研究会



記念講演

コロナの影響でこんなことがありますか？

- ・園の中で“三密”を避けるのは困難！
- ・運動会や遠足などイベントをどうしたらいい？
- ・子どもが何となくストレスを感じているみたい？
- ・保護者となかなか関係が築きづらい
- ・保護者が園に対して攻撃的だ
- ・保育者同士の関係がぎこちない
-

記念講演
ディスタンスから考える保護者とともに進める保育
～ディスタンス（距離）に関する心理学～
仁愛大学 人間学部心理学科
教授 森 俊之 氏



テーマ「ディスタンスから考える保護者とともに進める保育
～ディスタンス（距離）に関する心理学～」

講 師 仁愛大学 人間学部心理学科 教授 森 俊之

大会宣言

大会宣言



福井県社会福祉協議会保育部会保育士会
会長 伊川 千里

福井県保育士会 会長 伊川 千里

次年度開催地挨拶



敦賀市福祉保健部児童家庭課長 團田 敦史

閉会



福井県社会福祉協議会保育部会長 澤田 夏彦

大会宣言

このたび、「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」をテーマに、第60回福井県保育研究大会が開催されました。

昨年来続く新型コロナウイルス感染症の蔓延は、人類に未曾有の不安と恐怖をもたらしております。この間、こども園や保育所等では、常にこの感染予防に細心の注意を払い、取り得る対策を講じながらも、事業所内での感染事例が県内外で報告され、心無い誹謗中傷により心を痛めた保育関係者も少なくありません。

子どもたちにあっても、これまでの生活が一変し、メディアによる感染に対する恐怖などの見聞きを通じ、現在の世の中がその目にどう映っているのか、私たちはその思いに寄り添わなければなりません。

この感染症の出現により、人と人との関係の脆弱性を垣間見たなかで、私たち保育関係者は、社会環境がどのように変化しても、子どもたちの常に人を思いやる、不変の心を育むことの大切さを痛感しています。あわせて道徳性や規範意識が芽生える最も重要な時期に傍にいる大人としての責任と期待の大きさを感ぜずにはられません。

私たちは、本大会を契機に、コロナ禍にあっても、常に次のことを念頭に置き、様々な制約の中、子どもたちが遊びを通し総合的に発達していく姿を明確に描き、知恵を出し合い、工夫しながら保育実践にあたることを、ここに宣言します。

一 私たちは、子どもの最善の利益の保障はもとより、家庭や地域と連携し、こども園や保育所等の利用の如何を問わず、保護者に対する子育て支援に努めます。

一 私たちは、専門職として常に教育・保育の質の向上を目指すとともに、その取り組みを広く保護者や地域に伝えるよう努めます。

一 私たちは、教育・保育を通して子育ての楽しさ・食べる楽しさ・子どもの成長の喜びなどを共有しながら、親も子も育つ環境づくりに努めます。

一 私たちは、心身ともに健やかな成長を支える上で必要な教育・保育について、子どものみならず私たち自身も育ち合う仲間として、職場の内外を問わず積極的に議論し、提案します。

令和3年8月

第60回福井県保育研究大会